第８９回　まちづくり夜楽塾記録

「今、山で何が起きているか！～広く、静かに進行する食害～」

鈴木健一さん（天竜川・杣人の会）
平成 21 年 11 月 26 日（木）19:00～20：30

◆天竜川・杣人の会の活動

山の問題を自然環境、文化、歴史、人々の生活、様々な角度から勉強し、研究することによって山の持つ本来の役割や大切さをより多くの人びとに知ってもらう。一緒に山に行って体験して考えていくことを活動としている。

◆山が以前とは違い、おかしいと感じること

・全く手の入っていない放置された山、相続などで皆伐されて放置された山が目立つ。
・立ち枯れ、台風などでの倒木。
・日当たりがいい斜面、整備された山道なのに段々とわき道に草がなくなり、下草が生えていない山がふえた。
・土がむき出しで崩壊しつつある箇所（がら場）が増えてきた。

◆獣害（シカ・クマ）について

《食害によって引き起こること》

山肌の崩壊、谷川の汚濁、谷川の埋没による土石流、急激な堆積によるダム機能の低下

ニホンカモシカ→天然記念物。かつては絶滅種だったが、今はあちらこちらで見られ、北遠の各所で遭遇。
ニ ホ ン ジ カ→個体数がかなり多くなった。昨年、長野県では一万数千頭が捕獲された。
ツキノワグマ→日本の森の生態系の頂点（本州のみ）。雑食性の動物で木の実、花のみ、樹皮などを食べる。

《シカの被害》

水窪湖から 2～3kmの林道

去年、ある団体が記念植樹（ヤマモミジ）を 100 本くらいした。食害防止に半透明の光が多少入るパイプ（ヘキサパイプ）を使って植えたがほとんどが食べられて枯れている。

奈良代山（標高 1824m）・南アルプス

・シカによる樹皮はがし、手当たり次第に食べてしまい丸坊主。まるで火事にあったようになってしまう。
・オスジカが繁殖期に 10～20cmほどの成長盛りの細い木（サワラの木など）で角とぎをするため、木の価値がなくなってしまう。
・冬になると雪が積もり、水分を含んでやわらかくなった木の根を食べる。年のとった木は、食べられてキズになったところからバクテリアが入り、木が腐って木の樹勢が衰えてしまう。

クマザサ

伊豆スカイライン→芝刈りをしたかのようにクマザサが食べられてしまっている。
富　　士　　山→クマザサが食べられ枯れてしまい、下草が見えない状態。
奈　良　代　山→花が咲いて枯れたが、新芽が出てくる。しかし、その新芽をシカが食べてしまう。

バイケイソウ

すずらんの花に似ているが猛毒があり、シカは食べない。低地には、やはりシカが食べないアセビしか生えていない。このような草しか残らない。水窪山もバイケイソウばかり。

防除柵

シカの防除に効果があると言われている金網　2,500 円／m。シカは金網のアミを押し広げてしまう。イノシシは金網の下に穴を掘って入ってしまう。イノシシの通り道がシカの通り道にもなってしまう。一ヶ所でも開けられてしまうと、ウサギなども入って植林した苗が全滅してしまう。

最近使用されている防除柵は、ステンレスシールが入ったネットタイプ。
長さ 1.8m。2,500 円／m。全てにステンレススチールが入っているので、金網のように押し広げることはできない。2,000 円／mとして、100m 四方を覆うと材料費だけで 80 万かかる計算になる。人件費などを入れると 1ha で 200 万円くらいかかることになる。しかし確実に防げるわけではない。自分の山は自分で守るしかなくなる。

ステンレスシールが入ったネットタイプ（サンプル）

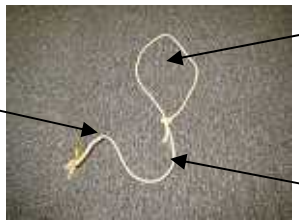
忌避剤

コニファー水和剤。猛毒。水に溶かして木に塗るタイプのもの。これは水質汚染を起こす可能性がある。非常に臭いので動物は近寄らないが、雨に洗い流されたりして半年ほどで効き目がなくなる。

《クマの被害》

木が最も生長する 5～8 月にかけて皮剥ぎをする。ヒノキやスギなど 20～30 年生の水揚げがよく、樹勢が盛んなものを狙う。クマにとっては皮のしたにある形成層がみずみずしくておいしく、甘いのでかじってしまう。せっかく大きくなった木も材木としての価値がなくなり、立ち枯れてしまう。また、クマの被害に合っていない木を探すことのほうが難しいくらい被害は多い。

クマよけのロープ



この輪の中に木が入る。

このヒモ部分がぶらぶらしてクマの鼻に当たって嫌がる。

ネクタイ方式でしめられる。

木の根から 5～60cmくらいおきに、3～4 ヶ所くらいに巻く。木から垂れ下がる部分は 35cmくらいの長さにしておく。これで食害を防ぐことができる。水窪では冬場に全て巻こうと計画している。

地元の人の防御方法は、森の周りに少しずつ糖蜜や甘いものを撒いていく。するとそれを舐めるので木への被害が少なくなる。しかし獣道を調べて専門家がやることになる。その他、山いちごや野いちごをあちらこちらに植えておく。

◆フリートーク（参：参加者　・　鈴：鈴木さん）

参：クマよけロープは片側にしか垂れないので、逆側から被害にあうのではないか？

鈴：クマの特性として、斜面に生えている木に対して山側の斜面から剥ぐクセがある。もう一つの方法として山側に来させないために、木の脇に枝打ちした木や葉を積み上げておく。そこにクマが乗ると足場が不安定なため嫌がるので防止になる。

参：クマやシカが増えすぎてバランスが崩れたために木に被害があるように思うが、クマやシカの数が減っても木へのダメージはなくならないのか？

鈴：数が増えすぎてしまっているので餌の問題がどうしてもでてくる。最終的には捕獲。伊豆の例として、シカの好きな牧草地に追い込んでおいて、ネットで囲い捕獲する。しかし増えていっている。究極的には生態系を保てる数まで減らすしかないと思う。

参：射撃（クレー）を習っています。春野町射撃場が閉鎖になり、浜松の射撃仲間は愛知県まで2時間半かけていかなければならない、と共に射撃人口も減っている。春野町の射撃場を復活させて、そこに練習にいけば春野町の活性につながるし、冬以外は春野町で練習をし、冬になったら山に行って射撃を楽しむ。楽しみながら何頭か捕獲も出来て・・・というように、もう少し若者に浸透させていけばいいのかなと思う。

鈴：シカを捕獲して、肉にまでするにはライフルで頭をプロが撃たないとただ射殺するだけになってしまう。命を最後まで人間のために役立てるには、射殺するときに頭を狙って一発でしとめて、沢まで降ろして、そこで解体して肉を水につけて冷やさないとダメになってしまう。冷やしてビニール袋にいれて背負って持ってくるらしい。食料にするには一頭４０ｋｇくらいのシカを担いで下までいって･･･となると、一人のハンターのできる数はしれている。若者にハンターになってもらってということも大事だが、今、猟銃にしてもライフルにしても所持が厳しい。だからあまりそぐわない状況だと思う。

参：春野町の射撃場の閉鎖の経緯は、鉛の害。鉛の害を放置できないということで、クレーの射撃場は閉鎖せざるを得ないということで閉鎖したと私は承知している。

参：私は、実際にはその鉛は害ではないという説もあったと聞いた。

参：春野町の閉鎖された射撃場の鉛を処理するのに何億というお金が掛かるそうです。全部、篩い分けをして鉛の成分をとって、それをするのに税金が使われる。

鈴：鳥とかがその鉛を食べて･･･ということで害になる。

参："龍山村で過疎地の状態をどうするか"という静岡総合研究機構主催のシンポジウムがあり、その中の質疑応答で非常に印象に残ったのは、現地の人からニホンカモシカを天然記念物から解除して欲しいという意見でした。食害の話しを聞いて、適正な密度まで頭数を減らすことと併せて食害が起こらないような山の秩序を作る以外にやっていく手立てはないのか。

鈴：カモシカは天然記念物で、今年捕獲が許可されている静岡県の頭数が 170 頭しかない。調査した上で適正だろうと判断したのでしょうが、水窪が 15 頭。カモシカは犬で追うと高いところに登るので、じっとしているところを撃つことができる。シカの場合は走って逃げてしまうので捕獲が難しい。カモシカは本来、高地に住んでいて高山植物を食べている。しかし餌を求めて下がっていっている。シカは上に上っていくので、上下から来て中腹には両方住んでいる。そして餌がないからどんどん下にいくという悪循環を繰り返している。カモシカもシカも農作物を荒らしてしまうから、もう山に住めないということで過疎化が進んでいることは切実な問題。